

三重の魅力再発見シリーズ

VOL.1/ 桑名 へ行ってきました～!! presents by 三重トヨペット

A 六華苑



記事のために特別に許可を獲て撮影しています。

↑ 鹿鳴館の設計で有名なイギリス人建築家ジョサイア・コンドルが設計し、桑名の実業家・二代諸戸清六の新居として建てられました。4層の洋館をもつ洋館と、そこから驚く大規模な和館や蔵、庭園からなります。和と洋が調和した全国的にも珍しい建造物で、国の重要文化財に指定されています。数々のドラマや映画の撮影地ともなった市内有数の観光スポットです。明治・大正期の趣を感じられる。苑内を散策してはいかがでしょうか。

六華苑

大華苑の洋館をよく見学すると、ハートマークや花のデザインが施されたところがあるのに気づかれます。遊覧バスを乗ることもできますので、ぜひ楽しんでください。

C はまぐりプラザ



記事のために特別に許可を獲て撮影しています。

↑ 公民館・漁業交流センターが入った複合施設。施設内には、桑名の漁業についての展示室のほか、損斐・長良川河口一望できる展望デッキもあり、絶好のロケーションで漁師・赤須賀などの歴史を知ることができます。また、食堂「はまかぜ」では、目の前の港で水揚げされた魚をお手頃価格で味わえます。

食堂「はまかぜ」→



↑ 洋館と和館とが壁一枚でつながり、行き来できるようになっています。池のまわりを散歩できる「池泉回遊式」の日本庭園も見どころです。新緑から紅葉まで四季を通じて様々な表情を楽しむことができます。



↑ 2階にある大きなガラス戸張りの開放的なサンルームは、コンドル設計の特徴のひとつ。ここから見る庭園は、二代清六もカメラにおさめたほどの絶景です。

D 諸戸氏庭園 煉瓦蔵



← 諸戸家の米蔵として使用され、蔵前の堀に船を着けて各地の米を搬入していました。当初は5連棟の蔵でしたが、昭和20(1945)年の戦災で西側2棟が失われ、現在では3棟が残っており、三重県指定文化財となっています。赤煉瓦が写真映えるスポットとして人気です。

B 七里の渡跡



↑ 江戸時代の五街道の一つであった東海道で、唯一の海路の玄関口であった場所。熱田と桑名を結び、その距離が「七里」(約27.5km)であったことから、「七里の渡」と呼ばれました。この鳥居は、これより伊勢路に入ることから「伊勢国一の鳥居」と称され、伊勢神宮の遷宮ごとに建て替えられています。



← 七里の渡跡近くにある「蟠龍橋」。船の航海を監視するための橋で、桑名を訪れる人が必ず目にしたシンボルを再現したものです。ひときり目立つ屋根に乗る龍が、この橋の名称の由来です。歌川広重の浮世絵「東海道五十三次」でも象徴的に描かれました。

→ 桑名名物「アイス饅頭(まんじゅう)」。昭和25年頃からある、大粒の小麦をアイスマイルで包んで固めた、饅頭のような形のアイスクリームです。七里の渡跡から少し歩いたところにある「住吉浦体験施設」でも購入できます。



HARRIER またひとつ、世界を新しく。

YARIS

日常に、運動を。走り、感動を。



三重トヨペットオリジナル
ヤリス動画も
チェック!



三重トヨペットオリジナル
ハリアー動画も
チェック!

